

荒川漁業協同組合（須貝金義組合長）と村が共催で行うサクラマスの稚魚放流式が4月24日、荒川水辺プラザで行われ、村内保育園の年長児29人が参加しました。

これは、園児に河川や川の生き物に親しんでもらおうと毎年行われているものです。放流の前に須貝組合長が、「放流したサクラマスが元気に戻ってくるようお願いを込めて放流してください」とあいさつ。この日準備されたのは、体長10センチほどの稚魚約2万匹で、昨秋採卵し、同組合で育てられたもの。園児たちは稚

初めての体験
村内保育園年長児
サクラマス稚魚の放流を体験



魚の入ったバケツを手に「大きくくなって戻ってきてね」、「元気にねえ」とやさしく放流し、稚魚の行方が見えなくなるまで目で追っていました。渡邊樹生ちゃん（沢）は「メダカを飼っていて、魚が大好き。4回も放流したよ。かわいいね」と初めての体験を楽しんでいました。

今回放流したサクラマスの稚魚約2万匹が、成魚となって荒川に戻ってくるのは約3年後。どれくらい大きくなって戻ってくるのか、今から楽しみです。

狂犬病予防注射を忘れずに！

生後91日以上の子犬は、狂犬病予防法により、生涯1回の登録と毎年1回狂犬病予防注射を受けさせることが飼い主に義務付けられています。村では県と県獣医師会と協力して、毎年5月に村内20の会場で集合注射を行っています。

各会場では、小型犬から大型犬までかわいい犬がたくさん集まりました。注射への不安や緊張からなのか暴れたり、吠えたりする犬もいましたが、獣医の先生がうまく回り込んで注射をしていました。

柴犬を飼う菅スエさん（小和田）は、「車の運転が出来ないので、集合注射は助かるよ。かわいいからいつも一緒だよ」と話していました。

村内には、現在259頭が登録されていて、195頭が集合注射を利用しています。

飼い主の義務と責任で、愛犬の登録と年1回の狂犬病予防注射を忘れずに行いましょう。



藤島蔵書の有効活用を！

～ 日本山岳会越後支部と連携協定 ～

5月18日、川北ふれあい自然の家で村と日本山岳会越後支部（遠藤家之進正和支部長）が「藤島蔵書」の有効活用に向けた連携協定を締結しました。

「藤島蔵書」とは、新潟県の山岳界の先駆者である故・藤島玄さんの貴重な資料・蔵書約6千点です。昨年、山の日限定で一般公開され、村内外から多くの人を訪れました。

村と日本山岳会越後支部は、この協定で藤島蔵書の価値をより地域に還元するため利用促進事業などについて、連携・協力していくことを確認しました。

調印式で平田大六村長は、「村の貴重な財産として、ぜひ村内外のみなさんに役立ててもらいたい」と蔵書の活用に期待を込めていました。



練習成果を発揮 熱戦が繰り広げられました！

平成29年度 春季消防演習・ポンプ操法競技会



優勝は2年連続 第2分団九ヶ谷隊

25℃を越える夏日となった5月21日、ふれあいどくむを会場に、村消防団の春季消防演習並びにポンプ操法競技会が行われました。

ポンプ操法競技会には、下関、四ヶ字、湯沢、九ヶ谷、川北隊が出場しました。この日のために、1か月以上にわたり、規律や操法技術などの練習を重ねてきました。

当日は、選手の家族なども応援に駆けつけ、熱い声援が飛び交うなか、緊張した表情の選手たちは、すばらしい操法を披露し、熱戦を繰り広げました。

結果、第2分団九ヶ谷隊が優勝。6月25日に神林農村環境改善センター(村上市)で開催される郡市ポンプ操法競技会に出場します。

◆競技会成績

- ▽小型ポンプの部
 - 優勝 第2分団九ヶ谷隊
 - 第2位 第3分団川北隊
 - 第3位 第1分団四ヶ字隊
- ◆優秀選手賞 *敬称略
 - ▽指揮者 石山 真太郎
 - (第2分団九ヶ谷隊・下川口)
 - ▽1番員 平田 寛幸
 - (第3分団川北隊・平内新)
 - ▽2番員 石山 竜太郎
 - (第2分団九ヶ谷隊・下川口)
 - ▽3番員 須貝 仁哉
 - (第3分団川北隊・高田)



優勝チーム選手 *敬称略

- 石山真太郎(下川口)・菅原将之(片貝)・石山竜太郎(下川口)・船山正紘(下川口)・高橋兵榮(下川口)

村内各地で

田植え作業が行われました！

5月8日頃から村内各地で田植えが始まり、水の張ったきれいな田んぼに緑の苗が次々と植えられていきました。村では約855畝の主食用水稻の作付けが予定され、新品種の新之助も6.2畝作つけされました。



▲村内でも作付面積が増えた新之助の田植え

5月17日には、関川中学校(村山敬介校長)の全校生徒が近くの学校田で田植え作業を体験しました。これは、郷土の基幹産業である稲作学習を通して、米作



りに取り組む人たちの思いを知ってもらうことがねらいで、昨年に続いて2年目。冷たい土の感触に声をあげながら、いねいにもち米の苗を植えていきました。

なれた手つきで植えていた井上自生さん(3年・上土沢)は、「2年目なので早く上手に出来た。秋には皆さんにおいしいお米を食べてもらいたい」と話してくれました。

収穫したもち米は、料理して地域の人へのおもてなしや村の農林業まつりで販売される予定です。(9ページにも掲載)